

# 報 告

会 長 柴 谷 方 良

## 平成11年度第1回常任委員会

日 時：4月10日（土）午前11時～午後5時

場 所：神戸大学文学部1階会議室

出席者：柴谷方良（会長）、窪園晴夫（事務局長）、井出祥子、荻野綱男、影山太郎、岸本秀樹、田窪行則、田野村忠温、長嶋善郎、西光義弘、林博司、原田かづ子、樋口康一

オブザーバー：早田輝洋（Pacific Rim Institute 検討小委員会委員長）、藤井義久（事務局長補佐）、松瀬育子（事務局長補佐）

## 議題

### 〔報告事項〕

- (1) 会長より現在の会員数について報告があった〔詳細は委員会記録参照〕。
- (2) 常任委員の追加  
大会関係作業部会の充実のために、林 博司（神戸大学）、田野村忠温（大阪外国語大学）、岸本秀樹（兵庫教育大学）の3氏を追加委員とする。
- (3) 日本学術会議からの後援依頼  
平成11年3月15日-18日開催の「第6回アジア学術会議—科学者フォーラム—」に対する後援依頼があり了承した。
- (4) 日本学術会議の学術研究団体の登録  
日本学術会議会員推薦管理事務局より第18期会員の選出に関わる学術研究団体の登録申請について案内があった。
- (5) 平成12年度春季大会（第120回）の開催校について  
千葉大学（文学部 中川裕氏）から開催受諾の意向が表明された。

### 〔審議事項〕

- (1) 平成10年度決算報告  
平成10年度の決算報告があり、了承された（別表1参照）。
- (2) 平成10年度予算  
事務局作成の予算案を審議し、一部修正の上、委員会へ提出する案を作

成した(別表2参照)。「大会関係費」に含まれる開催校へ送金される「大会費」については昨年通り(1大会)40万円とするが、演・シンポジウムの講師謝金はこの中に含まず、大会関係費から別途支出することを決定した。

- (3) 第118回大会(平成11年度春季大会)について  
6月19日、20日に東京都立大学で開催予定の大会について、講演、研究発表などの詳細を検討し、プログラムを決定した。研究発表については、覆面審査に基づき大会関係作業部会が作成した案をもとに、応募総数45件から40件を採択した。
- (4) 第119回大会(平成11年度秋季大会)について  
11月27日、28日の両日、神戸松蔭女子学院大学(西垣内泰介運営委員長)にて開催予定の大会について、シンポジウムの内容を検討した。会場の関係から、2つのシンポジウムを並行して行うことを決定した。詳細は次回の常任委員会で検討する。
- (5) 第12回国際応用言語学者会世界大会(AILA '99 Tokyo)への寄付金  
上記の国際会議より、協賛学会に対して寄付依頼があった。日本音声学会、日本英語学会と相談の上、委員会に諮ることを決定した。また寄付する場合には雑費から支出することを了承した。
- (6) 小委員会・作業部会の懸案について  
Pacific Rim Institute 検討小委員会(早田輝洋委員長)、夏期講座検討小委員会(西光義弘委員長)、国際関係作業部会(井出祥子座長)、大会関係作業部会(影山太郎座長)より活動状況が報告された。このうち国際関係作業部会からは、上記 AILA への協力と名誉会員制度について中間報告があった。[他の委員会・作業部会については委員会記録参照]。

#### 平成11年度第1回委員会

日 時：平成11年6月19日(土) 午前10時～午後1時

場 所：東京都立大学本部棟1階大会議室

出席者：柴谷方良(会長)、窪園晴夫(事務局長)、池上二良、井出祥子、井上和子、上野善道、荻野綱男、尾上圭介、影山太郎、梶 茂樹、加藤正信、金水 敏、久保智之、佐藤昭裕、沢木幹栄、清水克正、庄垣内正弘、高見健一、田窪行則、竹内和夫、田中克彦、田村すず子、辻 星児、西光義弘、林 徹、早田輝洋、原口庄輔、原田かづ子、樋口康一、松村一登、松本克己、藪 司郎、油谷幸利、吉田和彦、吉田 豊  
(以上35名)

委任状：30名

オブザーバー：角田太作（会計監査委員），湯川恭敏（会計監査委員），奈良毅（危機言語小委員会委員長），梅田博之（顧問），藤井義久（事務局局長補佐），松瀬育子（事務局局長補佐）

〔報告 項〕

議事に先立って，6月6日に死去された徳川宗賢氏を悼んで黙禱した。次いで，大会開催校を代表して荻野綱男氏より挨拶があった。

(1) 会長より現在の会員数について報告があった。

平成11年4月1日現在の会員数は以下の通りである（括弧内は前年比）。会員数が減少した主な理由は，前年度の委員会決議に従い，学会会則「会費未納者の取り扱いについて」第2項を厳密に適用したためである。

<国内>	個人会員	1821	(-32)
	維持会員	10	(±0)
	団体会員	127	(-5)
	賛助会員	3	(±0)
<在外>	個人会員	61	(-10)
	在外団体	4	(-5)
<小計>	個人会員	1892	(-42)
	団体会員	134	(-10)

---

<合計> 2026 (-52)

(2) 会長より平成11年度第1回常任委員会について報告があった。

(A) 常任委員の追加について

大会関係作業部会の充実のために，林 博司（神戸大学），田野村忠温（大阪外国語大学），岸本秀樹（兵庫教育大学）の3氏を常任委員に追加する。以上に加え，長嶋委員と吉田委員の在外研究に伴い両氏の代理を務めていた荻野綱男委員と樋口康一委員には，引き続いて常任委員として残っていただくこととなった。

(B) 第118回大会について

覆面審査の結果，45件応募の中から40件採択した。

(C) 日本学術会議からの後援依頼

日本学術会議より平成11年3月15日-18日開催の「第6回アジア学術会議—科学者フォーラム—」に対する後援依頼があり，了承した。

(D) 平成12年度春季大会（第120回）について

千葉大学（文学部 中川裕氏）から開催受諾の意向が表明された。

(3) 文部省科学研究費補助金について

文部省学術国際局長から，「科学研究費補助金（基盤研究等）に係る交

付業務の日本学術振興会への移管について」の通知があった。科学研究費のうち「基盤研究」、「萌芽的研究」、「奨励研究」、研究成果公開促進のうち「学術定期刊行物」、「学術図書」、「データベース等」および特別研究員奨励費の交付業務を4月1日付けで日本学術振興会へ移管した（「国際学術研究」は平成10年度で廃止）。

(4) 文部省科学研究費補助金の内定額について

上記の業務移管に伴い、平成11年度の学術定期刊行物補助金の交付内定（51万円）が日本学術振興会からあった。従来は、60万円であったのが9万円の減額である。この減額は他の学会でも起こっているようで、日本英語学会や他の学会でも同様とのことである。

(5) 委員会等の活動報告

学会選出委員である田村すず子氏（日本学術会議、語学・文学研究連絡委員会委員）より報告があった。また編集委員会の庄垣内正弘委員長より次の3点が報告された（各種小委員会の活動報告については審議事項の欄を参照）。

- ・平成11年度も従来通り2巻の出版を予定しているが、現時点では採択原稿がまだ非常に少ない。
- ・学術情報センターから依頼のあった学会誌（『言語研究』）のオンライン化について検討中である。特殊文字が扱えない等の問題点もあり、今後、常任委員会や事務局と検討する。
- ・執筆要項の文献欄（英語雑誌の記載例）について若干の訂正を加える。

[審議事項]

(1) 平成10年度決算報告

事務局長報告の後、会計監査委員の湯川恭敏、角田太作両氏より監査結果の報告があり、質疑の上、了承された（別表1参照）。

(2) 平成11年度予算

平成11年度予算案の説明があり、質疑の上、これを承認した（別表2参照）。

(3) 第12回国際応用言語学者会世界大会（AILA '99 Tokyo）への寄付

上記の国際会議より、協賛学会に対して寄付依頼があった。日本英語学会をはじめとする他学会の対応も含め協議した結果、10万円寄付することを決定した。

(4) 『学術用語集 言語学編』のデータベース化について

学術情報センターより、学術用語データベース（日本学術振興会『文部省学術用語集 言語学編』）の作成・公開について承諾を求める問い合わせがあった。審議の結果、日本英語学会と同じように承認することとな

った。

- (5) 第119回大会（平成11年秋季大学）について  
11月27日、28日の2日間、神戸松蔭女子学院大学を会場に開催することが了承された（運営委員長は同大学の西垣内泰介氏）。また大会関係作業部会の影山太郎座長からシンポジウムの企画について説明があり、これを了承した。
- (6) 危機言語シンポジウムについて  
危機言語小委員会の奈良毅委員長より、今年11月26日に国立民族学博物館との共催でシンポジウムを行う計画が提案され、審議の結果、これを承認した。
- (7) 夏期講座について  
夏期講座検討小委員会の西光義弘委員長より8月後半に開催予定の第1回夏期講座について申込状況等の説明があり、これを了承した。
- (8) Pacific Rim Linguistics Institute について  
Pacific Rim Institute 検討小委員会の早田輝洋委員長より、2001年にアメリカで開催される Pacific Rim Linguistics Institute への派遣講師の専門分野について、Institute のテーマに合わせ、また日本語学会からの貢献ということを勘案して、(a) 日本語文法の歴史、(b) 現代日本語文法、(c) 社会言語学・方言研究、(d) アイヌ語ないしは北方言語、以上4分野の専門家を派遣することに決めたとの報告があった。派遣講師の人選については、検討小委員会に一任することが了承された。また、同 Institute への参加希望学生に対する奨学金の支給についても、その方法などが検討されている旨の報告があった。
- (9) 大会運営委員会検討小委員会（仮称）の設置について  
上記小委員会の設置について、常任委員会大会関係作業部会の影山太郎座長から経緯の説明があり、「大会運営委員会（仮称）」の設置を検討する小委員会の設置が認められた。また、小委員会委員の人選を作業部会に一任することが承認された。

## 〔別表1〕 平成10年度 日本言語学会決算

自 平成10年4月 至 平成11年3月

(単位 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,969,000	刊 行 費	5,118,015
雑 誌 売 上	1,668,020	発 送 費	348,020
文 部 省 補 助 金	600,000	編 集 費	389,330
預 金 金 利	26,760	事 務 委 託 費	3,989,160
大 会 関 係 収 入	1,562,185	大 会 関 係 費	2,674,497
雑 収 入	181,015	委 員 会 費	176,605
		常 任 委 員 会 費	484,717
		危 機 言 語 小 委 員 会	58,775
		夏 期 講 座 検 討 小 委 員 会	150,000
		C I P L 負 担 金	100,000
		選 挙 関 係 費 積 立 金	300,000
		名 簿 作 成 費 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	750,000
		国 際 関 係 積 立 金	750,000
		記 念 大 会 積 立 金	250,000
		危 機 言 語 シ ン ポ ジ ウ ム 費	500,000
		通 信 費	290,308
		事 務 局 費	422,478
		消 耗 品 費	175,224
		予 備 費	579,941
		雑 費	0
収 入 合 計	18,006,980	支 出 合 計	18,007,070
前 期 繰 越	4,773,529	次 期 繰 越 金	4,773,439
計	22,780,509	計	22,780,509

◇収入内訳(単位 円)

会費

国内個人会員会費	12,432,000
国内団体会員会費	990,500
国内維持会員会費	100,000
国内賛助会員会費	20,000
在外個人会員会費	401,000
在外団体会員会費	25,500
合 計	13,969,000

雑誌売上

三省堂書店	256,200
松香堂書店	999,220
丸 善	201,600
その他書店	126,000
バックナンバー売上	85,000
合 計	1,668,020

文部省補助金 600,000

預金金利 26,760

大会関係収入

116回大会出店料	89,685
117回大会出店料	40,000
111回～115回大会予稿集売上	78,500
116回大会予稿集売上	899,500
117回大会予稿集売上	454,500
合 計	1,562,185

## 雑収入

112号抜刷増刷代	59,359
113号抜刷増刷代	34,746
換金手数料	6,000
コピーサービス (言語研究)	910
広告料 (危機言語シンポジウム)	30,000
出店料 (危機言語シンポジウム)	50,000
合 計	181,015

\*換: じ料は、在外会員からの小切手換金料としての収入

## ◇支出内訳 (単位 円)

## 刊行費

	114号 (210p.)	115号 (214p.)	計 (424p.)
印刷費	2,491,650	2,539,110	5,030,760
抜刷代	26,565	60,690	87,255
合 計	2,518,215	2,599,800	5,118,015

\*割付・校正料は印刷費に含む

印刷部数 各号共に2,250部

## 発送費 348,020

『言語研究』送料 (三省堂への送付料も含む・追加送料は含まない)

## 編集費

通信費	33,050
旅費	256,280
会議費	53,000
アルバイト代	47,000
合 計	389,330

## 事務委託費

日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた事務委託内容の覚書に基づき業務の代金

事務委託費	3,799,200
消費税	189,960

合 計 3,989,160

大会関係費

	第116回	第117回	計
プログラム印刷費	138,600	134,400	273,000
出欠葉書印刷費	22,050	22,050	44,100
プログラム発送費	186,930	192,860	379,790
大会費	467,177	347,030	814,207
予稿集印刷	613,200	550,200	1,163,400
	(650部発行)	(450部発行)	
合 計	1,427,957	1,246,540	2,674,497

委員

費	150,175
旅費	26,430
合 計	176,605

常任委員会費

常任委員会費	(305,970)
通信費	5,660
旅費	249,000
会議費	51,310
Pacific Rim Institute 検討小委員会	(178,747)
通信費	1,359
旅費	130,120
会議費	47,268
合 計	484,717

危機言語小委員会

通信費	9,110
会議費	49,665
合 計	58,775

夏期講座検討小委員会

通信費	2,073
旅費	130,927
会議費	17,000
合 計	150,000

C I P L 負担金	100,000
選挙関係費積立金	300,000 (定期Bへ)
名簿作成費積立金	500,000 (定期Bへ)
夏期講座積立金	750,000 (定期Bへ)
国際関係積立金	750,000 (定期Bへ)
記念大会積立金	250,000 (定期Bへ)
危機言語シンポジウム費	500,000 ※支出内訳末の危機言語小委員会シンポジウム「危機に瀕した言語」費内訳を参照

## 通信費

切手購入費	101,200
国際FAX料金・銀行FAX料金	22,822
会費請求・督促状送付	23,610
受取小切手換金手数料・カード手数料・送金手数料	26,697
『言語研究』追加発送・抜刷発送・バックナンバー発送	14,639
発表採否通知・司会者依頼状など大会関係送料	97,670
その他(文部省提出書類送付等)	3,670

---

合 計 290,308

## 事務局費

文具費	14,874
通信費	55,400
旅 費	171,800
会議費	35,404
アルバイト代	145,000

---

合 計 422,478

消耗品費		
文具		924
払込取扱票（印刷費含む）		42,000
各種封筒（印刷費含む）		126,000
会費納入のお願い（印刷費含む）		6,300
	合 計	175,224
予備費		
危機言語小委員会		
シンポジウム費不足分		446,591
夏期講座検討小委員会		(133,350)
ポスター印刷代		63,000
ポスター発送費等		70,350
	合 計	579,941
雑費	0	
○危機言語小委員会		
シンポジウム「危機に瀕した言語」費内訳		(単位：円)
危機言語シンポジウム費及び予備費より支出		
講師旅費		492,400
予稿集印刷代		131,250
アルバイト代		140,000
通信費		94,077
事務用品		41,264
印刷費		47,600
	合 計	946,591

日本語学会  
平成10年度予算・実績対照表  
収入

(単位 円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
会 費	13,500,000	13,969,000	469,000
雑 誌 売 上	900,000	1,668,020	768,020
文 部 省 補 助 金	600,000	600,000	0
預 金 金 利	20,000	26,760	6,760
大 会 関 係 収 入	1,200,000	1,562,185	362,185
雑 収 入	50,000	181,015	131,015
収 入 合 計	16,270,000	18,006,980	1,736,980
前 期 繰 越	4,773,529	4,773,529	0
合 計	21,043,529	22,780,509	1,736,980

△=実績-予算

## 支出

(単位 円)

科 目	予 算	実 績	対予算差異
刊 行 費	6,700,000	5,118,015	1,581,985
発 送 費	450,000	348,020	101,980
編 集 費	600,000	389,330	210,670
事 務 委 託 費	3,990,000	3,989,160	840
大 会 関 係 費	3,100,000	2,674,497	425,503
委 員 会 費	200,000	176,605	23,395
常 任 委 員 会 費	500,000	484,717	15,283
危 機 言 語 小 委 員 会	150,000	58,775	91,225
夏 期 講 座 検 討 小 委 員 会 費	150,000	150,000	0
C I P L 負 担 金	100,000	100,000	0
選 挙 関 係 費 積 立 金	300,000	300,000	0
名 簿 作 成 費 積 立 金	500,000	500,000	0
夏 期 講 座 積 立 金	750,000	750,000	0
国 際 関 係 積 立 金	750,000	750,000	0
記 念 大 会 積 立 金	250,000	250,000	0
危 機 言 語 プ ロ ジ ェ ク ト 積 立 金	500,000	0	500,000
危 機 言 語 シ ン ポ ジ ャ ム 費	0	500,000	△ 500,000
通 信 費	350,000	290,308	59,692
事 務 局 費	450,000	422,478	27,522
消 耗 品 費	400,000	175,224	224,776
予 備 費	750,000	579,941	170,059
雑 費	103,529	0	103,529
支 出 合 計	21,043,529	18,007,070	3,036,459
次 期 繰 越		4,773,439	4,773,439
合 計	21,043,529	22,780,509	△1,736,980

△=予算-実績

## 資産勘定

(単位 円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
(本部事務局)	(15,389,518)	前受会費	(256,500)
現金	233,527	国内個人	196,000
第一勸業銀行 普通	234,360	国内団体	7,000
定期A	7,000,000	在外個人	45,000
定期B	7,750,000	在外団体	8,500
郵便振替貯金	163,131	積立金	7,750,000
カード	8,500	未払金	2,767,420
(事務局)	(157,841)	次期繰越	4,773,354
事務局口座	10,470		
常任委員会口座	147,371		
計	15,547,359	計	15,547,274

\*未払金は、当該年度内に支払われるべき費用が支払われなかった場合の科目

\*平成10年度決算の未払金は「言語研究」第115号の印刷費、抜刷印刷費、発送費

## 第一勸業銀行 定期B

(単位 円)

平成10年度選挙関係費積立金	300,000
平成10年度名簿作成費積立金	500,000
平成10年度夏期講座積立金	750,000
平成10年度国際関係積立金	750,000
平成10年度記念大会積立金	250,000
平成9年度選挙関係費積立金	300,000
平成9年度名簿作成費積立金	500,000
平成9年度積立金	2,200,000
平成8年度積立金	2,200,000
合 計	7,750,000

〔別表2〕 平成11年度 日本言語学会予算  
自 平成11年4月 至 平成12年3月

(単位: 円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費	13,500,000	刊行費	5,500,000
雑誌売上	1,500,000	発送費	450,000
文部省補助金	600,000	編集費	600,000
預金金利	20,000	事務委託費	3,990,000
大会関係収入	1,500,000	大会関係費	3,100,000
雑収入	50,000	委員会費	200,000
積立金からの繰越金	1,600,000	常任委員会費	500,000
		危機言語小委員会費	150,000
		夏期講座検討小委員会費	150,000
		Pacific Rim Institute 検討小委員会費	250,000
		C I P L 負担金	100,000
		選挙関係費	900,000
		名簿作成費	1,500,000
		夏期講座経費	1,000,000
		危機言語プロジェクト費	1,000,000
		夏期講座積立金	750,000
		国際関係積立金	800,000
		危機言語プロジェクト積立金	500,000
		記念大会積立金	500,000
		通信費	350,000
		事務局費	450,000
		消耗品費	300,000
収入合計	18,770,000	予備費	400,000
前期繰越	4,773,439	雑費	103,439
計	23,543,439	計	23,543,439

## 第118回大会

期 日 1999年6月19日(土)~20日(日)

会 場 東京都立大学

## 第1日(6月19日)

公開講演会・総会 午後1時30分~5時50分

開会の辞

会 長

開催校挨拶

萩上 紘一

講 演 ラテン語ラッハマンの法則再考

ジェイ・ジャザノフ

一ソシユール, クリウォーヴィッチ,

キバルスキーが残した問題

言語機能の普遍性と言語能力の多様性

福井直樹

会員総会

会員懇親会 午後6時~8時

## 第2日(6月20日)

研究発表 午前10時~午後3時50分

## ◦A 会 場

司会 金水 敏

(A 1) 10:00~ 日本語の補助動詞「しまう」の意味と用法 大場 美穂子

(A 2) 10:30~ Grammaticalization of Japanese Verbals:  
Pragmatic Persistence and Syntactic  
Decategorialization 大野 喜代治(A 3) 11:00~ Category Extension of the Japanese Verb  
'kuu' 篠原 和子

司会 福地 肇

(A 4) 1:00~ 意味変化のメカニズム 田中江 扶

(A 5) 1:30~ 英語の助動詞, 強調語にみられる語順と  
subjectification の度合いの相関関係について 家口 美智子

司会 菊地 康人

(A 6) 2:20~ 「ト思う」述語文の情報構造について 小野 正樹

(A 7) 2:50~ 日本語の談話における照応  
—ゼロ代名詞の生起と文の結束要因— 早川 幸子

(A 8) 3:20~ 「さすがに」と評価副詞との関係 山田 陽子

## ◦B 会 場

司会 長谷川信子

(B 1) 10:00~ 日本語における HAVE/BE 交替 高橋 英也

(B 2) 10:30~ Relativized X' Theory and the Null Subject 富山 晴仁

Romance Languages

- (B 3) 11:00~ Way 構文と非能格性 高見 健一  
 司会 原田かづ子
- (B 4) 1:00~ 言語習得における格助詞「が」の  
 省略可能性について 鈴木 孝明
- (B 5) 1:30~ 文とテキストにおける「常体」と「敬体」  
 の並存を条件づけるもの 川村 三喜男  
 司会 竹沢 幸一
- (B 6) 2:20~ Reconsideration of Saving Effects in  
 Japanese 上田 由紀子
- (B 7) 2:50~ 日本語における状態
- (B 8) 3:20~ 連体修飾「動詞+た」と VP 分析 外崎 淑子  
 宇根谷 孝子
- C 会場
- 司会 湯川 恭敏
- (C 1) 10:00~ 現代チベット語の名詞修飾構造  
 —主要部内置型と主要部外置型— 白井 聡子
- (C 2) 10:30~ チベット語可能表現の統語論的分析 岩田 清孝
- (C 3) 11:00~ ランニーン阿細彝語の音韻体系と語構成 岩佐 一枝  
 司会 本間 猛
- (C 4) 1:00~ デンマーク語のビッチパターンと  
 セグメントの持続時間調整 三松 国宏
- (C 5) 1:30~ A computational analysis of uniqueness  
 points in auditory word recognition in  
 Japanese 米山 聖子  
 司会 福井 玲
- (C 6) 2:20~ 『捷解新語』原刊本の並書  
 —コリャードの『懺悔録』との対照— 中山 めぐみ
- (C 7) 2:50~ 韓国語の接辞 -ney と終助詞「ね」の  
 ムード機能に関する一考察 平 香織  
 堀江 薫
- (C 8) 3:20~ 中国語の「了」の基本的な機能とその  
 仕組み 張 継 英
- D 会場
- 司会 坂本比奈子
- (D 1) 10:00~ スンバワ語 (インドネシア) の関係節 塩原 朝子
- (D 2) 10:30~ オリヤ語における、関係代名詞の一用法  
 の発展 山部 順治

- (D 3) 11:00~ アラビア語チュニス方言の否定表現 熊切 拓  
について  
司会 早田 輝洋
- (D 4) 1:00~ 現代モンゴル語の使役を表す接辞が連続 梅谷 博之  
して現れる場合
- (D 5) 1:30~ 満州語文語会話書における反語表現について 山崎 雅人  
司会 下宮 忠雄
- (D 6) 2:20~ バスク語アスぺイティア方言の繫辞的要素 吉田 浩美
- (D 7) 2:50~ ウォライタ語の受動文 若狭 基道
- (D 8) 3:20~ リトアニア語の「副詞的」分詞における 櫻井 映子  
従属的な時間の表現

## ◦E 会場

- 司会 佐藤 昭裕
- (E 1) 10:00~ 現代ロシア語と日本語における副動詞 北上 光志  
の談話的働きの違い
- (E 2) 10:30~ Semantic Parameters of Emotion Daniela Căluianu  
Predicates in Japanese and Romanian
- (E 3) 11:00~ A Typological Study of Polysemy in Case 山口 和之  
司会 尾上 圭介
- (E 4) 1:00~ 日本語の多義的な名詞並列構造の解析 山中 信彦  
—関連性理論の観点から—
- (E 5) 1:30~ 「タ」:〈実現〉を表示するアスペクト 山本 雅子  
—認知的考察から—  
司会 ダニエル ロング
- (E 6) 2:20~ 東西方言折衝地域における談話展開の 須崎 由嘉  
社会言語学的研究
- (E 7) 2:50~ 徳島方言における文末詞「だ」の 島田 武  
意味機能について
- (E 8) 3:20~ 日本の流行歌における「ら抜き言葉」 大館 実子  
の使用

◇ 退 会  
国内会員 79名  
在外会員 8名  
団体会員 4件

◇ 誤記の訂正

『言語研究』第115号に以下の誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

		誤	正
175頁	15行	条件分	条件文
177頁	1行,	伝統	伝達
185頁	1行, 3行	貴界島	喜界島

◇ 本学会委員徳川宗賢氏は、平成11年6月6日心筋梗塞のため死去されました。謹んで哀悼の意を表します。

◇ 本誌は、文部省平成11年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。